

す。

○平 進介議長 6番、金子豊美議員。

○6番 金子豊美議員 ぜひそのようになることを望んでおりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それから、最後になりますけれども、あやめ公園の整備、これは5年前も質問したわけですが、当然その間には環境の変化もありましたし、庁舎の建設、公共施設の整備等、さまざまなことが出てきてるわけですので、おくれたりも仕方がないことだとは思ひております。

その中で、例えば観光資源として利用してきた昔からのやり方、あと、古種などさまざまな財産も残っておるわけですので、その辺の保存も含めて慎重に進める必要があるんじゃないか。

あと、公園だけではなくてその周辺、野川の支障木、あかしあ橋の下のほうは少し伐採されたようでありまして、あの辺の環境整備も含めて、今後取り組みする必要があるというふうには思ひておりますので、その辺についてもぜひご尽力をいただきたいというふうにお願ひします。どうでしょうか。

○平 進介議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 先ほどの答弁の中であやめ公園の話詳しく申し上げなくて大変申しわけありませんでした。最初の前置きが長かったものから、ちょっと反省しております。

それで、あやめ公園につきましては、金子議員おっしゃるように、あそこのあやめ公園だけではなくて周りの横町であったり、総宮神社と、それから野川沿いの河川敷も含めた、総合的な計画をまず立てて、構想を立てて、構想については令和2年度あたりに大体構想をまとめたということ担当課、思ひておりますが、今度は構想を受けて基本計画を立てなさいいけない。それをまず立てまして、そのときには専門家とか、今は市民中心に、あるいは観光にかかわる人中心に行っておりますが、そういったや

り方で決めなさいいけないと思ひます。

あとは、じゃあ今度はどういう事業でやるかと、長寿命化でもできるんですけども、長寿命化でできない部分というのは、河川敷とか、そういったところではできないわけですよね。あやめ公園の都市公園の長寿命化はできるんですけども、あとは、平成9年ごろですか、大規模な改修やってるわけですよね。ですから、その部分をちぐはぐにしてもまずいいし、非常に難しいと思ひます。

ただし、金子議員おっしゃるように長井古種、これは財産ですから、これを生かすような計画を最終的に立てて、そして具体的に何からやるかということ議会のご了承を得て進めなさいいけないというふうには考へております。

○平 進介議長 6番、金子豊美議員。

○6番 金子豊美議員 どうもありがとうございました。

ぜひ今後事業がスムーズに、また市民が期待できるような市政運営ができますように、ご期待申し上げながら一般質問を終わります。ありがとうございました。

渡部正之議員の質問

○平 進介議長 次に、順位9番、議席番号3番、渡部正之議員。

(3番渡部正之議員登壇)

○3番 渡部正之議員 清和長井の渡部正之です。3月定例会に当たり、一般質問をさせていただきます。

この冬は、記録的な暖冬により1月、2月の降雪量が極端に少なく、雪が少ないことにより、地域を支える経済にさまざまな影響をもたらしている状況にあると感じております。

そのため本市では、少雪に伴う除排雪業務や

農作物等への影響に係る情報を共有し、対応策について確認、検討を行う長井市暖冬少雪対策連絡協議会が設置されております。県などの動向とあわせながら、今後予測される温暖化による影響等も含め検討を進めていただければと思います。

また、新型コロナウイルス感染拡大への対策として、全国の小・中・高・特別支援学校において、3月2日から春休みまで臨時休校を行うよう要請されたことや、全国的なスポーツ・文化イベントは中止、延期または規模縮小するようになったことから市内の学校も臨時休校となり、一定期間、集会の自粛や卒業式も規模縮小での開催となるなどしております。本市では、いち早く新型コロナウイルス感染症対策連絡協議会を立ち上げ対応されておりますが、飲食業や観光関係、また多くの市民に影響があることから、一日も早い収束を願うばかりであります。

ことしは、東京オリンピック・パラリンピックが開催される年であります。

予定では7月24日から8月9日までの17日間、パラリンピックについては8月25日から9月6日の13日間の日程で行われ、聖火は6月7日に置賜総合支庁西庁舎から川のみなと長井までの約2キロを10名でリレーするということになっております。本市ではタンザニア連合共和国と、リヒテンシュタイン公国のホストタウンになっていることから、ホストタウン交流イベントも予定されております。長井市民一丸となってこのスポーツの祭典を盛り上げていきましょう。

それでは、通告に従いまして、一般質問をさせていただきます。私からは2項目で7点質問いたします。一括質問にて質問させていただきますので、ご答弁のほどよろしく願いいたします。

初めに、大項目1、まちづくりのビジョンについて質問いたします。

本市では、第5次総合計画において中心市街

地の活性化を重点戦略の一つとして位置づけており、平成28年3月に長井市中心市街地活性化基本計画が認定されており、人口減少社会の中にあっても都市機能を維持するとともに、西置賜の中心市にふさわしい「まちの顔」を形成し、長井市の魅力を高め、産業の連携や、観光交流の拡大によって新たなにぎわいを生み出すために、各種事業が行われております。

まちなかのにぎわいづくりや、長井独自の素材を活かした商業と観光のまちづくりとして、中心市街地活性化推進事業や観光連携型まちなか活性化事業、生活と産業を支える交通基盤づくりとして、街路整備事業や市営バス運行事業、また、うるおいある都市基盤づくりとして、都市再生整備事業などが主な事業であり、あわせて長井市まち・ひと・しごと創生総合戦略、リーディングプロジェクトの一つとして多機能型図書館と、子育て世代活動支援センターをあわせ持つ公共複合施設の整備が検討されております。

これまで市民意向調査や市内外のさまざまな分野の有識者で構成された長井市中心市街地活性化協議会等で地域の現状や活性化のため課題を協議し、多様な関係者の合意形成を図りながら計画を進められてきております。

中心市街地の活性化による新たな人の流れから長井市全域の発展へとつなげていくことが重要なことと考えることから質問させていただきます。

1点目として、まちなかの活性化について質問させていただきます。

新庁舎建設が始まり、桐町成田線街路整備事業においては道路改良工事が進められており、今後は駅前通りの整備などが進んでいくものと思われます。

未来に向けて大きく歩を進めている中、まちなかのにぎわい創出というところから起業・創業支援事業や本町複合施設整備事業などにより

民間による創業や、商店街の枠を超えて商店主等が連携してまちづくり事業を行うなど新たな動き等は一部見られるものの、依然として商店街には空き店舗や未開発地などが目立ち、また、まちなかの活性化が余り進んでいないように見受けられます。

各種支援策における進捗状況と今後の展開をどのようにしていくのか、産業参事にお伺いいたします。

2点目は、新規の起業・創業に関して9月定例会で質問させていただいた関係人口はとても有効な考え方であると考えます。

政府の令和2年度予算において地方創生推進交付金を活用して、東京から地方へ移住して、起業・創業する際に最大300万円を支給する移住支援事業について対象者・対象企業を拡大する要件緩和の実施や、関係人口の創出・拡大について地方での副業・兼業等に要する移動費を3年間で150万円支援していくことが示されております。

このような政策を生かし活性化につなげていくことも一つと考え質問させていただきます。

長井市東京事務所は、首都圏と長井とをつなぐ活動の拠点であるわけですが、関係人口という観点から、本市と結びついた新たな動きはあるのでしょうか。

また、今後の長井市東京事務所とのつながりをどのように考えるのか地方創生参事にお伺いいたします。

次に3点目ではありますが、本市は、西置賜地域の中心として人口減少社会にあっても都市機能を維持、整備していくことは重要であり、新庁舎に隣接して整備を検討している多機能型図書館と、子育て活動支援センターをあわせ持つ公共複合施設もその一つであると思います。

公共複合施設整備においては、市民の子ども・子育てニーズ調査や、中心市街地の活性化に関する市民アンケートにより、屋内型の子供

の遊び場の整備や集客力のある施設の整備、趣味の活動や地域活動しやすい環境の整備を求める声が多かったことにより中心市街地のにぎわいの核となるような施設検討がなされ、これまで市民検討委員会や庁内検討委員会等を組織し、市民アンケートや計画案に対するパブリックコメントにより、市民から意見を取りまとめながら基本計画を進められております。

一方、新庁舎建設や市民文化会館耐震・長寿命化事業、また、学校給食共同調理場の整備事業が行われていることや、今後、公立置賜長井病院が改築されることに加え、都市再生整備計画事業を初めとする社会資本整備総合交付金事業も進めていかなくてはならないこと、さらには、現在継続して進めている各種事業もあるということから、今後の財政運営に対しての不安の声も寄せられております。

しかし、子供たちが郊外の施設に行って遊んでいる現実には地域経済への影響を及ぼし、子育て世代が住んでいてよかったと感じることが薄れることにもつながります。

未来への投資として、コストの低減を図り、低コストでも最高のパフォーマンスを発揮できる子供からお年寄りまで幅広い年齢層が交流し、周辺市町村からも施設利用者が訪れるような、魅力的な複合施設が望ましいと考えますが、市長のお考えをお聞かせください。

4点目ではありますが、まちづくりの中核である市役所と、地域交通の拠点である長井駅を一体化した新庁舎の完成は長井市の新たなスタートであると考えます。

そこには新たなにぎわいが生まれなければなりません。

新庁舎と、今後予定される公共複合施設を生かした交流人口、観光人口の増加への取り組みや、長井のまちなか魅力UP戦略にもありますが、旧長井小学校第一校舎と道の駅、川のみなと長井の連携によるさらなるまちなかへの人の

流れを誘導する魅力づくりなどをどのように考えていくのか、市長のお考えをお聞かせください。

次に大項目2、コンパクトシティ・プラス・ネットワークについてであります。

高齢者や子育て世代が安心して暮らすことのできる生活環境の実現や、財政面、経済面において持続可能な都市の経営をしていくためには都市のコンパクト化と公共交通のネットワークが必要とされております。

本市では、今後の地域づくりを担う拠点として、市内全地区公民館がコミセン化され、各地区の地域づくり計画により、地域住民による地域づくり活動が始まっております。中心市街地の活性化は各地区と多様なネットワークによりつながることが重要と考えることから質問をさせていただきます。

1点目として、コンパクトシティ・プラス・ネットワークを推進していく上で、各地区の現状を捉え特性を生かしながら中心部とのつながりを強くしていくことは重要な課題であると考えます。

都市計画マスタープランにおいて、地域特性を生かした整備を目指すこととされ、立地適正化計画においては各地区の現状分析をして計画を進められておりますが、均衡ある発展のため、どのように考え進めていくのか、市長にお伺いたします。

2点目として、地域にとって最適な交通ネットワークの構築についてであります。

本市では、コンパクトなまちづくりにおいて市営バス路線や時刻の見直しを行い、市営バスとフラワー長井線との接続や、各コミュニティセンターからの接続等を調整することで、利便性の向上に取り組み、今後も地域住民の生活に欠かせない交通手段として機能を強化されていくとされております。

最適な交通ネットワーク構築のために今後ど

のように進めていくのかを地域づくり推進課長にお伺いたします。

3点目に中心市街地と地域との、人、物、情報の活発な交流は、長井市全体の活性化につながると思います。

このような交流は少なく、今後は、中心市街地での各地域が主役のイベント等を行うことは相互の活性化につながり、積極的に進めていくことも必要と考えますが、どのように考えるのか、商工観光課長にお伺いたします。

以上で壇上からの質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。

○平 進介議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 渡部正之議員から長井市の将来を見据えたまちづくりビジョンについてということで、大変さまざまな提言も含めて、現状分析をしながらいろいろご提言、ご質問いただきました。順次お答えをしたいと思います。

まず、きのうの代表質問でも勝手に私のほうから貴重な時間を、特に浅野議員には申しわけなかったんですけども、私どもが今考えているまちづくりビジョンというのは、20年ぐらい先を見据えた上で必要な取り組みだと思っております。実際、平成28年から令和7年までの10年の公共施設整備計画、そのちょうど真ん中が令和2年度でありますので、そこから後半部分の段階で、進む段階で、公共施設整備についてはある程度将来の見通しを出さなきゃいけないだろうというふうに思ってます。

そこで重要なのは、渡部正之議員からも言っていたんですが、確かに本当にこのままこんなハード整備をやっていいのかというような心配をされる市民の皆様の声というのは、これは率直に市民の皆様の不安だと思うんですね。こういったところをどういうふうにやっぱり説明して理解をいただいているかということと、今、我々の置かれている長井市の状況というのはもうこのままだと本当に大変なことにな

りますよと、要は若い人から見放されてしまうと、もう既に私は特に今の20代、30代の親、50代から60代の人にはもう長井はだめだと。だから、長井にこだわらずに自分の住みたいところに、あるいは自分のつきたい仕事に自由についていぞというふうに言ってるんじゃないかと思えないです。それぐらいやはり我々の世代がもう諦めてるところがあるんですね。

ただ、今回、議員からいっぱい、渡部議員初め、きのうもきょうも午前中も、ただいまの金子議員からもそうなんですが、やっぱり我々、少しずつきちんとやっていきながら、20年後には胸を張ってどうだと、これぐらい長井は魅力的だぞと言えるようなまちをつくっていくということが今、我々の責任だろうと思っておりません。

そういった意味では、特に施政方針でも述べさせていただいたんですけれども、雇用、働く場ということについては、従来の考え方を捨てるとは言わないんですけれども、それだけではきっと通用しないだろうと、新しい技術を使ったまちのあり方、あるいは雇用のあり方をわからなくても模索する努力をしないとだめだと、それを考えるとやっぱり20年ということだと思っております。

それでは、順次、お答え申し上げてまいりたいと思います。

渡部議員からは中心市街地の活性化による新たな人の流れから長井市全域の発展へとつなげていくことが重要なことと考えることから、その考え方を問いたい。私のほうには、未来への投資としてコストの低減を図り、低コストでも最高のパフォーマンスを発揮できる子供からお年寄りまで幅広い年齢層が交流し、周辺市町村からも施設利用者が訪れるような魅力的な公共複合施設が望ましいと考えるがどうかということのご提言でございます。

これは渡部正之議員おっしゃるとおり、この

公共複合施設の整備を行う際は、まずは建設コストの低減を図るといふ、これは必須だと思っております。またさらに維持管理の負担も少なくするパフォーマンスを発揮できるような、そういうハードの部分とソフトを考えていかなきゃいけないというふうを考えておきまして、そこからいわゆるPPP、結論から申し上げますと、私ども行政だけじゃない、従来の方式じゃないやり方をPFIで学校給食共同調理場は行いましたけれども、今度またそれと同じような、あるいはまた違った形の官民連携で行っていきべきだと思っております。

平成30年7月に作成した長井市公共複合施設建設整備基本計画というものがございまして、これにおきましても自治体が直営で建設するよりも経済的であり、さまざまな民間のノウハウ、アイデアを取り入れることが可能となる、民間の活力を取り入れた建設手法も検討してまいりたいということで策定してありますので、これをまさに実現する時期だと、ときだと思っております。

このたびの公共複合施設の基本方針の1つ目には、多世代の居場所としてにぎわいや交流の拠点となる施設、2つ目には、「遊び」や「学び」を通して子ども自身が持つ、育つ力を養成する施設、3つ目には、多様な利用形態に合った効率的で柔軟な施設、いわゆる多世代型の利用できるような施設、今までにはちょっとなかったようなものをできるだけ知恵を絞ってつくっていかうということでございます。限られた予算の中で工夫しながら都市再生整備計画事業等の有利な補助金を活用し、さまざまな魅力ある施設となるよう検討してまいりたいと考えております。

具体的には多機能型図書館と子育て世代活動支援センターが合築することで、子育て関連のワンストップサポート体制が充実し、子供にとっては季節を問わず、体を使って遊んだり読書

することもでき、また、図書館と子育て世代活動支援センターを結ぶ交流スペースでは保護者や学生、高齢者等の幅広い年齢層の方々にとってもお茶を飲みながら例えば談話や読者、勉強等も自宅や職場、学校だけでなくくつろぐことができ、気軽に立ち寄ってみたいくなる滞在型交流の場所となるように検討してまいりたいと考えております。さらには、周辺市町村からも訪れていただけるような県内の同様の施設とは違った特色のある魅力的な複合施設となるよう検討してまいりたいと考えております。

私どもでそういったことを公共として取り組みながら、あとは民間の皆様からさまざまな投資をやっぱりいただけないと、本当に魅力的なものにはならないと考えておりますので、今後は商店街や商工会議所初め、民間の皆様の投資等々、あるいはさまざまな起業・創業等、商売を行っていただくということをこれをきっかけにして期待してるところでございます。

続きまして、2点目でございますが、新庁舎と今後予定される公共複合施設を生かした交流人口、観光人口増加への取り組みや、旧長井小学校第一校舎と道の駅、川のみなと長井の連携によるさらなるまちなかへの人の流れを誘導する魅力づくりなどをどのように考えるかということでございます。

新庁舎が、議員からも紹介いただきましたけれども、長井駅の位置にできることと、市道本町西1号線、これは東北労金のところからグンゼ通りを十字路として駅のほうまで延長する道路でございますけれども、これは現在進行中の県道桐町成田線街路事業の本町大通り商店街とつながることから、中心部と駅とのアクセスがさらに改善され、人の流れが変わるものと考えております。ご承知のとおり、県道桐町成田線については令和3年度で全て終了する予定ということで、現に工事のほうも電柱の地下埋設等々始まっておりますが、空き地は現在目立ちます

けれども、そこまでは商店街の皆様、約束どおり、いろんな店舗の建設やら貸しビル等々で、空き地が生まれ変わると考えております。

これによりまして、中心部の通行量がふえ、歩いて商店街に行く人もふえるのではないかと見込んでおります。また今後、公共複合施設ができることでその利用者が商店街での買い物や食事、あるいはフラワー長井線で利用することも見込めることができることから、新たな店舗出店も期待されるところでございます。新庁舎と公共複合施設はまちなか活性化の原動力となるよう、建設後のまちづくりを含めて進めてまいりたいと考えます。

まちづくりについては、駅前通りまちづくり協議会、これは栄町を中心とした中央通り商店街、それから本町・中央まちづくり協議会、そして、民間事業者が頑張れるよう継続的に意見交換も踏まえ、相互の役割で活力を生むよう取り組みたいと思います。

また、昨日、渡部秀樹議員のご質問にお答えいたしましたけれども、宮・小桜街区まちづくり協議会、これは文教の杜周辺とした大町、十日町、あるいは高野町等々の皆さんでつくっている協議会あるわけですけども、川のみなと長井から旧長井小学校第一校舎、そして市役所とか複合施設というのものもあるんですが、やっぱり私どもとしては重要文化的景観のもう一つの核である文教の杜、そしてもう一つがあら町、つつじ公園周辺なわけですけども、そちらをぜひ文教の杜から総宮神社、あやめ公園とつなげていくような人の流れをつくれるんじゃないかということを考えているところでございます。

国道側からの人の流れを生むことによりまして、旧長井小学校第一校舎は現在非常に利用者が多いわけですけども、観光交流センターとの連携、まちなかとの連携がまだ今の状況ではスムーズにつながっていない状況でございます。ことしの時期的には少しおくれるかもしれませんが

が、初夏あたりには旧長井小学校の第一校舎にもレストランなどもできますし、少しずつまちなかに入る人がどんどんふえてくるというふうに期待されております。

長井市は先ほど申し上げましたように重要な文化的景観に認定されているとおり、船着き場のあった宮と小出の古い町並みがあり、こういった場所と組み合わせが大事であると思っております。文教の杜やまちめぐり美術館の催しとの連携なども可能でありまして、さらには食事の提供や空き店舗の活用によるさまざまな商売の創業等々に期待したいところでございます。観光交流センターから人の流れを生むためには、宮・小桜街区まちづくり協議会やあら町商店街も含め、駅前通り、本町大通りとの協力が必要になりますので、これらについてはやまがたアルカディア観光局がかかわり、舟運文化が感じられる商品企画など、相互に相乗効果が出るように進めたいと考えております。

私のほうの、3ついただいておりますが、最後でございしますが、2点目のコンパクトシティ・プラス・ネットワークについてでございます。

コンパクトシティ・プラス・ネットワークというのは、これから20年間の先を見据えたときにますます重要な理念になるというふうに思っております。中心市街地については、我々、行政だけでやれることは限られているわけですが、行政が先立ってやることによって民間の投資をいよいよ仰いでいくと。民間の土地の所有者の中にも事情があって自分ではもう投資できないという方もいらっしゃいますけども、そういった場合はぜひ安く土地を貸してくださいと、あるいは場合によっては貸しビルとか建ててくれないかというふうに今、お願いしてるところですが、これはその方その方の事情があるかと思っておりますが、必ず人のにぎわいができますと、じゃあ、土地を借りてでもそこに自分で商売やり

たいという人が出てくると、それを我々期待しているわけでごさいます、これは必ずしも長井の人がしてくれなかったら、外から来ていただいてもいいと。現に長井で、例えば米沢とか山形から来て商売している人って結構いらっしゃいますんで、これが今にぎわいがどんどん生まれますと、長井の人にまず頑張ってもらいたいですけど、それができないとすれば、やっぱりそういったことの可能性は広がってくると思っております。

コンパクトシティ・プラス・ネットワークを推進していく上で各地区の現状を捉え、特性を生かしながら中心部とのつながり、これは周りの5地区ということだと思いますけども、大変重要な課題であると考えてるが、均衡ある発展のためどのように考え進めるかということでございます。

長井市では、先ほど言いましたようにコンパクト・プラス・ネットワークを推進するために居住機能や医療、福祉、商業等の都市機能の誘導、集約に向けた長井市立地適正化計画を昨年の3月に策定しまして、地域全体を見渡した面的な公共交通ネットワークの再構築を図るため、フラワー長井線沿線の2市2町でフラワー長井線沿線地域公共交通網形成計画を、これを平成28年2月に策定しました。

立地適正化計画では、市街地周辺地域と集落地域において市内の6地区がそれぞれ自主的に策定した地域づくり計画の実現を支援するとともに、各地区コミュニティの中心区域において、小さな拠点となるコミュニティセンター化を地区と一緒にやって、地元の皆様と一緒にやって進めて、私ども応援してるところです。

また、市街地の中心拠点と周辺の集落地域を漏れなく結ぶ公共交通ネットワークを維持、拡充することにより市街地周辺地域と周辺地域のコミュニティを維持し、市民生活を支援してまいります。

まだまだ今の市民バスでは十分だとはもちろん思っておりませんので、議会のほうでも視察された先進事例などの提案などもいただけるものと思っておりますので、そういったことを参考にしながら、本当に利用しやすい、誰でもが利用できるような交通ネットワーク。あともう一つは、人生100年時代ですから、やっぱり少し歩くということもしていかなないと、これは後々やっぱり本人が大変になるということが見えているわけですから、自分自身も含めて歩かなきゃいけないというふうに思っているところがございます。

周りの5地区については、中央地区もそうなんですけど、市のほうとしてはそれぞれ地域づくり計画を立てていただいたことについて、令和2年度から具体的に職員が回って、いろいろお手伝いをさせていただくと。あと、引き続き地域担当職員を兼務になりますけども置かせていただくと。あと、地区の防災センターと地区の地域福祉の機能を、これは市のほうでお願いして、地元でいいよと言ったら置かせていただきたい。いざというときに長井市のほうに今度防災センター、具体的な防災センターの部屋、最新のやつをつくるわけですけども、その地区に、それぞれコミセンにそれを連携とれるようにしたいということと、あと、特に長井市の場合ですとミニデイサービスって非常にいい取り組みなんですけども、こういったところがやっぱりできなくなっている地域も出てまいりますので、引き続きやっていただいているところは支援しながら、できないところは今度コミセンでそういったところの人たちに来ていただいて中心都市になっていただくと、その中でぜひ体育館的などころがつかれないかということを考えているところがございます。そういった財源も含めて、あとは地域がいろんな計画、新規事業も含めて、それを応援していくという考え方でコンパクトシティとネットワークを周辺の地

域との均衡ある活性化を図っていきたいと考えております。よろしくお願いいたします。

○平 進介議長 竹田利弘地方創生参事。

○竹田利弘地方創生参事 私の方からは最初の質問、まちづくりのビジョンについてのうちの(2)関係人口という観点からの本市と結びついた新たな動きはあるのか。また、今後の長井市東京事務所とのつながりをどのように考えるかについてお答えしたいと思います。

令和元年の6月に閣議決定されました、まち・ひと・しごと創生基本方針2019におきましては、今後の重点施策に将来的な地方移住にもつながる関係人口の創出・拡大を上げ、国も関係人口の創出には力を入れております。

また、渡部議員からご案内のありましたとおり、長井市におきましても関係人口の創出は非常に重要と認識をしております。来年度から始まります第2期の総合戦略の基本目標2にも「長井市への新しいひとの流れをつくる」の中に、関係人口の創出・拡大を掲げ、より一層、この取り組みを強化することとさせていただきます。

令和元年の9月に国土交通省が実施しました地域とのかかわりについてのアンケートの調査結果によりますと、3大都市圏に住む18歳以上の約4,680万人のうち、2割強の1,080万人の方が地縁、血縁以外で実際に特定の地域を定期的、継続的に訪問している訪問系の関係人口と推計されております。また、特定の地域とかかわりを持っていない人のうち約3割、820万人の方は、自分が住んでいる以外の地域とかかわりを持ちたいと思っているとの結果も出されております。この調査では、関係者とかかわり続けるために、楽しい、リフレッシュできるという理由を抑えて1番の理由は、人との出会いやつながりがあることや共感を得られることが一番多かったようでございます。

本市におきましても、これまで地場産業振興センターと協力いたしまして、両者の東京事務

所を拠点に関係人口づくりのきっかけとなります。移住、定住の相談やふるさと納税及び観光PR事業などを行ってきました。また、具体的な事業として、大田区の梅屋敷商店街や蒲田駅前などで修学旅行の際にキャリア教育の実践として行っております。北中のあめんごは平成22年から、南中のだがしや学校は平成28年度から連続で行っております。

また、防災協定につきましても平成28年4月に大田区と29年12月には東村山市との間で締結することができました。また、長井市議会と大田区議会の議員交流の橋渡しや、市内事業者の都内での販路拡大、池上本門寺での雪灯り回廊まつりや朝市など、長井市が都内で開催、参加するイベントへの支援等、特に長井市と大田区の地域間連携を進めてまいりました。こちらの大田区との連携については、この東京事務所を拠点に今後も強化していきたいと考えているところでございます。

また、さらには、長井市を応援して下さる首都圏などに在住する本県出身者などの皆様が結成されたふるさと長井会の活動拠点としても役員会とか各部会の活動の集まりとして大いに活用されております。また、産業分野でも、さきにも申し上げましたが、飲食業の数社が定期的に長井の事業者から野菜や果物を中心に取引があるようですし、ふるさと長井会の産業部会の活動を通して、西置賜産業界が大田区の製造業の企業を訪問したりと、あと、大田区の方が来ていらっしゃるということで、相互に交流もしております。

さきに述べました国土交通省の調査結果からも3大都市圏に住む多くの方が自分の住んでいる地域以外とのかかわりを持ちたいと思っております。ことが示されましたので、今後はさらに東京事務所を活用しながら、長井市への東京の方など、いわゆる大都市圏に住む方が長井市への興味を持っていただき、関係人口の創出につながるよ

うな取り組みを充実させていただきたいと思っております。

また、先ほど議員からご紹介いただきました、地方創生推進交付金を活用した移住の支援策がございましたが、こちらにつきましては県が実施主体となる事業でございますので、県と連携しながら、長井市も参画しながら取り組んでいきたいと考えてございます。

市独自の事業といたしましては、令和2年度は関係人口創出について、総務省において関係人口がこういった長井市のような地域と継続的に深くつながる事例を創出、発掘するために地域課題を設定し、関係人口と地域との継続的な共同事業や関係人口も意識した地域活性化に取り組む全国で15から20程度の地方自治体を一提案当たり700万円を委託事業として、すなわち全額、国で負担するというところでございますが、支援する関係人口創出・拡大モデル事業が実施される予定でございます。本事業の正式の募集はまだでございますが、本市では東京事務所を拠点とした関係人口の創出につながるような事業を構築し、ぜひ取り組んでみたいと考えてございます。

この事業は、国の令和2年度予算が成立後に詳しい要綱等が示される、募集開始となるようでございますので、採択を受けられるように努力したいと考えてございます。

事業内容についてはこれから構築となりますが、総務省で示しております事業でございますが、まず東京事務所を拠点にふるさと長井会の皆様などのご協力を得ながら、関係人口のまずは掘り起こしから始めたいと考えております。例えばですけれども、ふるさと納税の寄附者と市内事業者の共同による首都圏のニーズ等の課題の掘り起こし等から始めてみたいと思っております。

最後になりますが、関係人口の創出という観点からも東京事務所の機能強化は喫緊の課題と認識しておりまして、令和2年度の取り組みと

して検討してる総務省の関係人口創出・拡大事業モデル事業や、令和3年度以降の地方創生関連の交付金事業などで財源措置を見込みながら、現在、本市の東京事務所は置賜地域地場産業振興センターと併設で非常勤の顧問が1人と年度単位で雇用してる職員が1人、短時間勤務の職員が1人という状況ですので、例えば江戸川区に設置しております鶴岡市の事務所でございますが、常勤の職員が2人とあと臨時雇用ということで嘱託職員が3人、そのうちの1人が江戸川区役所のOBということで、非常に活発してる事例もございますので、そういったことをちょっと参考にしながら、職員体制の充実も視野に入れ、東京事務所における活動のさらなる発展を図っていきたいと考えてございます。以上でございます。

○平 進介議長 藁谷 尊産業参事。

○藁谷 尊産業参事 私には、まちなか活性化の各種支援策における進捗状況と今後の展開をどのように考えるかということでご質問を受けております。

この中心市街地につきましては、議員がおっしゃるとおり、長井市中心市街地活性化基本計画を策定しております。人口減少の社会の中にありまして、第5次総合計画におけるまちの将来像実現のため、中心市街地が持つ多様な都市機能や歴史、文化等々の地域資源などを活用しまして、魅力や利便性を向上させることにより、多くの人が訪れ、交流し、住み、住民が生き生きと活動するにぎわいのあるまちづくりを目指すものでございます。

これを実現するために、現在、55の事業を実施しております。計画の進捗状況についてでございますけれども、歩行者の通行量、創業事業者数、まちなかの観光客数の3つの目標指標を掲げまして、これら55事業を進めることによって達成しようとしておるところでございます。

なお、この目標の達成度や掲載している各種

の進捗状況及び見通しにつきましては、毎年フォローアップを行って評価し、中心市街地活性化協議会において意見交換をしております。

具体的に申し上げますと、この計画、年度が平成32年、令和2年度までということでございますので、まだ途中段階ということでございますけれども、歩行者通行量につきましては1日の歩行者数を397人としております。これに対しまして、平成30年度の調査の結果につきましては256人ということでございました。また、創業事業者数でございますけれども、計画期間中の目標値を5年間平均で4.6件としております。計画開始から平成30年度までの3年間ということになりますけれども、平均4.3という形で伸びてきております。3つ目のまちなか観光客でございますけれども、観光交流センターが平成29年度にオープンしたということもございまして、こちらにつきましては大幅な増加というような状況になっております。

今後の展開ではございますけれども、当初は計画期間中に事業管理を見込んでおりました本計画の核となる、これも議員がおっしゃるとおりまだ完了しておりませんが、桐町成田線の街路事業が計画期間中に完了していないということで、現在も本町大通りには空き地が目立つ状況になってるというふうな状況になってます。

ただし、ちょっと私も昨年4月にこちらに赴任しておりますけれども、4月にこちらに赴任して最初、まちなかをちょっと歩かせていただきましたけれども、当初はやはり中高生の方々とかそういう方がほとんど歩いてないということでございましたけれども、これも議員がおっしゃるように本町の複合施設なんかができることによって、そういう中高生や、また、若いお母さんとかお子さんという方々がちらほらというか、若干ふえてきてるのかというふうに思ってます。また、菜なポートについても昨年11月に移転オ

ープンという形で、若干、にぎわいを戻しているのかなというふうに思っています。

今後でございますけれども、市庁舎や公共複合施設、また、市道の整備も進みます。長井市としましては、民間投資がしやすいような環境整備という形で実施しておりますので、今後は民間の事業というか投資に期待するところがございます。そのため、中心市街地活性化基本計画につきましましては、先ほど申しましたように令和2年度で1期目が終了ということになりますので、2期という形で令和3年度から新たな2期計画の認定を目指して、引き続き事業を推進していきたいというふうに考えておまして、現在この策定に向けて取り組みを開始しているところでございます。以上です。

○平 進介議長 新野弘明地域づくり推進課長。

○新野弘明地域づくり推進課長 私のほうからは、2つ目の質問、コンパクトシティ・プラス・ネットワークの(2)最適な交通ネットワーク構築を今後どのように進めていくのかについてお答えいたします。

本市におけます主な交通ネットワークといたしまして、市営バスや民間の山交バス、そしてフラワー長井線がありますが、特に市民生活に直結、身近な市営バスの利便性向上を図りながら、最適な交通ネットワークを構築していきます。市営バス運行の大幅な見直しにつきましては、さきの12月の議会のほうで鈴木一則議員に小関秀一議員の質問で答弁しておりますので、内容省略させていただきますが、現在、地域づくり推進課のほうでたたき台を策定した状況でございます。

現在、内部の検討状況、検討の段階でございますので、その後の調整につきましてまだという状況でございますが、令和2年度の上半期のほうで、まずバスの利用者のほうから、担当職員のほうがバスに乗り込みまして利用者の意見、ヒアリングのほうを行っていきたくて考えてお

りますし、あと、各地区の地区長会、コミセン館長会、ミニデイなどの意見も集約しながら、また、市議会の皆さんのほうにもご意見いただきながら、最適な路線案にするように見直しを進めてまいります。

変更するスケジュールでございますけれども、軽微な変更を、対応といたしまして、通勤通学を考慮した朝夕の時刻の変更、若干の路線変更につきましましては令和2年の10月に実施しながら、ことしの冬の通学に間に合うように対応していきたいと考えております。あと、全面的な見直しにつきましては、長井駅を拠点とした乗りかえるハブ化運行を考えておりますので、新庁舎、新長井駅が完成したタイミングとなりますので、令和3年の10月に変更予定しているところでございます。

また、昨年、市議会のほうで視察されました岡山県の玉野市の事例がすごく参考になる事例ですので、あそこは乗り合いタクシーと定時路線バス、あとICTを組み合わせた先進的な事例がありますので、そこを参考にしながら、並行して進めてまいりたいと思います。以上でございます。

○平 進介議長 赤間茂樹商工観光課長。

○赤間茂樹商工観光課長 中心市街地とそれを取り巻く5つの地域との相互の活性化、つながり、そういうことを積極的に進めていく必要があるのではないかなというふうなご提言をいただきました。

これまで中心市街地の活性化を図るために、まちなか活性化事業として補助金を活用した商店街ごと、それから団体ごとのイベントなどを行いましてにぎわいづくりをしようというふうなことで行ってまいりましたが、確かに市内各地域とのつながりという点では少し弱かったのかなというふうに考えているところです。

ご提案いただきましたように、中央地区を取り巻く5つの地区との交流、流通というものが

中心市街地の活性化にかかわってくると、さらに都市部と周りの地区との交流といえますか、中心部に向かう人の流れも多くなってくるのかなというふうに思いますので、今後そのような視野を広げた活性化事業ということで取り組んでいければいいかなというふうに思っております。

また、コミセンができておりますので、ぜひ観光交流センターなども使った各コミセンごとの事業なども組み入れたらどうかなというふうに考えられますので、そのような方向でちょっとこれから相談してまいりたいと思います。

もう一つ、まちの活性化にはやはり個別の店の力も非常に頑張りも重要になってきますので、こちらについてはこれまで同様、起業・創業補助金を活用して個性ある、そして集客力のある店に育てていただくよう努めてまいりたいと思います。個店と商店街、各地区のつながりをこれからもう少し検討して活性化につなげてまいりたいと思います。ありがとうございました。

○平 進介議長 3番、渡部正之議員。

○3番 渡部正之議員 大変丁寧なご答弁ありがとうございました。何点か再質問させていただければと思います。

まず、産業参事にお伺いいたします。

まちづくりが進んできているという中で、今後それと同様に同時にまちなかの商店等ができてくるようなイメージを持ってるわけですが、やはりそういったところに力を入れていただきたいなと思っております。今後、今までの支援策にプラスして、市長からもありましたけれども、まちづくりビジョンのようなものをこれから起業・創業なされる方向けに出してはどうかと考えますが、お考えをお聞かせください。

○平 進介議長 藁谷 尊産業参事。

○藁谷 尊産業参事 貴重な提言ありがとうございます。

今現在の支援策という形であれば、新たな創

業・起業という部分につきましては補助金という形で支援させていただいておりますけれども、そういう意味ではビジョンということもございますけれども、まちなかの活性化の中でもいろいろと対応策というものをさせていただいておりますし、その中ではソフト事業なんかも検討されてるといってもございますので、そういうものを使いながら、また、支援という部分では商工会議所等との関係機関とも連携しながら対応してまいりたいなというふうに考えております。

○平 進介議長 3番、渡部正之議員。

○3番 渡部正之議員 ありがとうございます。

やっぱり日に日に変わっていくことが予想されますので、ぜひビジョンなども含めていただいて、起業・創業者がふえるような取り組みにつなげていただければと思います。

次にですけれども、地方創生参事にお伺いたしたいと思います。

先ほどお話の中にふるさと長井会の方とのつながりという部分でお話ありましたけれども、今後、例えば長井市からの協力者などと一緒に取り組むような活動などがあるのか。また、そこから全国に発信していったりという形でも期待するわけですが、こういったところについてお考え等、お聞かせいただければと思います。

○平 進介議長 竹田利弘地方創生参事。

○竹田利弘地方創生参事 お答えいたします。

ふるさと長井会の方との意見交換の中でも、長井市の地域課題等を解決するために、ふるさと長井会の会員の方がやはりいろいろ事業、長井で行う際にもやはり長井でのサポートの方がいけばもっと協力できるというご意見もございました。それで、ふるさと長井会の方がこちらのほうで事業行った際に、参加なされた市民の方にもお伺いしますと、やっぱり私たちも協力してもっと会を盛り上げていきたいと、もっとふるさと長井会の、いわゆる東京等の在住者の

方と協力してやっていきたいという方も多数ございまして、特に来年度、令和2年度からは地元のリporter的な会員もぜひ募集していきたいということで、今のふるさと長井会の会員の方も考えていらっしゃると思いますので、それに協力しながら、事業を進めていきたいなと思っております。以上でございます。

○平 進介議長 3番、渡部正之議員。

○3番 渡部正之議員 ありがとうございます。ぜひそういった取り組みから全国の関係人口の方へつながるような取り組みを期待します。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、今回は長井市のこれからのビジョンということで、未来を考えた質問をさせていただきました。やはりこれからの世代、若い世代の方々が自信を持って、この地域に住んでいてよかったなと感じていくことがやっぱり重要だと思いますし、そういったまちづくりを進めていただければと思っております。今後、いろいろな施策等を通して、この長井市がよりよくなることを期待いたしまして、今回の質問を閉じさせていただきます。どうもありがとうございました。

○平 進介議長 ここで暫時休憩いたします。再開は午後3時20分といたします。

午後 2時57分 休憩

午後 3時20分 再開

○平 進介議長 休憩前に復し、会議を再開いたします。

市政一般に関する質問を続行いたします。

鈴木一則議員の質問

○平 進介議長 次に、順位10番、議席番号1番、鈴木一則議員。

(1番鈴木一則議員登壇)

○1番 鈴木一則議員 政新長井の鈴木一則でございます。一般質問2日目、最後でございます。よろしくお願いいたします。

年が明けた長井の郷は、私も記憶にない少雪で、除雪を担っている業者の方々の経営は大変な状況と思います。早速、建設課で手当ていただいておりますが、新年度早々の土木、建設事業の前倒し発注などに取り組んでいただきたいものです。

さらに、新型コロナウイルスの感染拡大は、発生地中国から世界に広がりを見せ、日本でも1,000人を超える感染者となり、終息の兆しが見えない状況です。先月29日の国による突然の小・中、高校、特別支援学校の一斉休校要請により、卒業式や受験を控えて多くの混乱を招いていますが、終息に向けて好判断であることを願いたいとともに、活動が制限される子供たちだけでなく、大人も適切な行動や判断が求められるところです。

間もなく東日本大震災から9回目の3月11日を迎えます。復興は進んで、防潮堤の整備、都市計画等により新しい町並み、住宅地が整ってきていますが、いまだ自宅再建がままならず、復興住宅等で生活に不便を感じている方々、また、原発事故による放射能の拡散により、いまだ帰還困難区域が解除となっていない地域など、もとの生活に戻れない方が多くいらっしゃる現状がもっと速いスピードで解消されることを願ってやみません。

このたびの一般質問では、施政方針でも取り上げられております人口減少問題と地域の安全について質問いたしますので、ご答弁よろしくお願いいたします。

質問の1点目は、人口減少抑制の対策について